

病院における一般名処方及びオーダーリングシステムに関する状況等調査

1. 内容

更なる一般名処方の普及を促進させる事業を検討するため、福岡県下病院におけるジェネリック医薬品の一般名処方の発行状況やオーダーリングシステムの導入状況等の調査を実施した。

2. 調査対象

－ 福岡県病院薬剤師会会員（332 施設）

3. 調査時期

－ 平成 25 年 8 月 29 日～9 月 9 日

4. 調査方法

－ 福岡県病院薬剤師会より提供された客体名簿に基づき、県薬務課からアンケート調査票（別紙：「資料 3 - 2」）を調査客体に郵送し、回答用紙を県薬務課宛に郵送又は FAX で回答された。

5. 調査結果

－ 調査対象客体 332 施設のうち、253 施設（76 %）より薬務課宛にアンケートの回答書が提出された。その集計結果は下記のとおりであった。

(1) 施設概要

1) 病床数

回答施設（253 施設）における病床数は、図 1 のとおりであった。

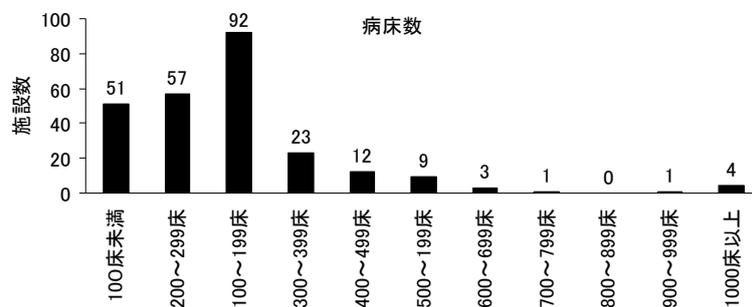


図 1. 回答施設における病床数

2) オーダーリングシステム導入状況

回答施設（253 施設）のオーダーリングシステム導入状況について、オーダーリングシステム

を導入している施設は 118 施設 (47%)、導入していない施設は 135 施設 (53%) であった (図 2)。オーダーリングシステムを導入している施設 (118 施設) のうち、薬品マスタのデータ項目における薬価基準の収載医薬品コード (12 桁コード) を採用している施設は 95 施設 (81%)、採用していない施設は 23 施設 (19%) であった (図 3)。

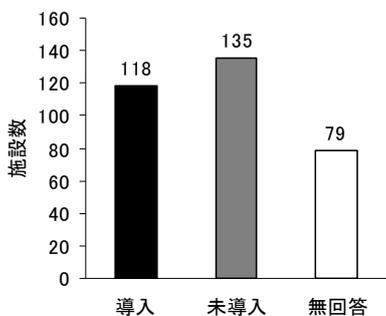


図 2. オーダリングシステム導入の有無

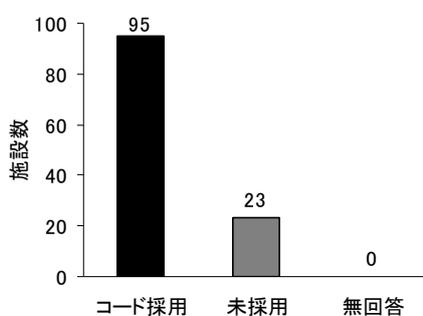


図 3. 薬価基準収載医薬品コードの採用の有無

(2) 院外処方せん及び一般名院外処方せんの発行状況

1) 院外処方せんの発行状況について、院外処方せんを発行している施設は 189 施設 (75%)、発行していない施設は 64 施設 (25%) であった (図 4)。

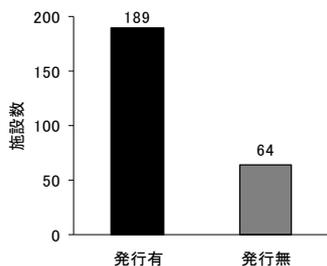


図 4. 院外処方せんの発行の有無

2) 院外処方せんを発行している施設 (189 施設) において、院外処方の発行枚数は図 5 のとおりであり、院外処方せんの発行割合が 90%以上の施設は 120 施設であった。

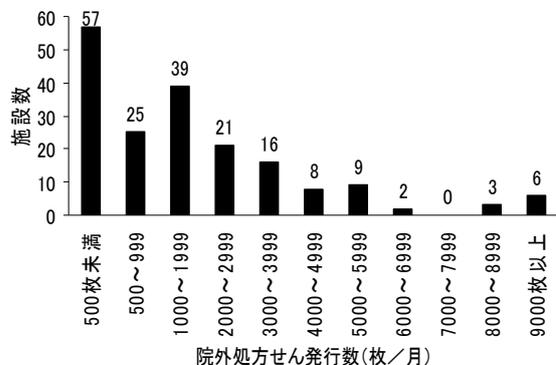


図 5. 院外処方せん発行枚数 (枚/月)

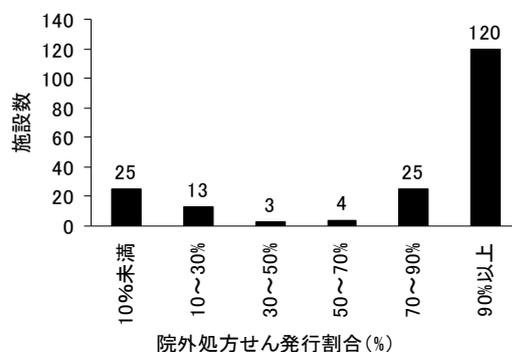


図 6. 院外処方せんの発行割合 (%)

3) 一般名処方せんの発行状況

一般名処方せんの発行状況については、一般名処方の発行している施設は 90 施設 (36%)、発行していない施設が 162 施設 (64%) であった (図 7)。

院外処方せん中の一般名院外処方箋の発行割合については、図 8 のとおりであった。

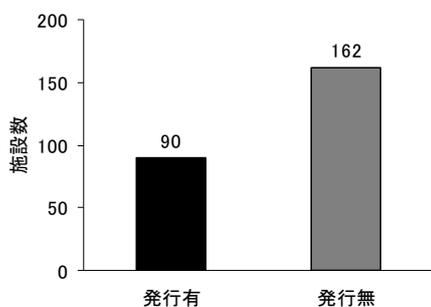


図 7. 一般名処方せんの発行の有無

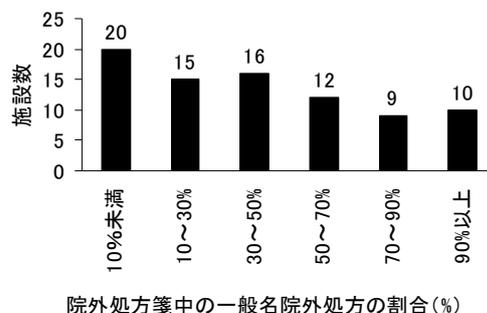


図 8. 院外処方箋中の一般名院外処方の発行割合

(3) 一般名処方に対応したオーダリングシステムについて

1) 一般名院外処方せんの発行に対応したオーダリングシステム

一般名処方を発行していると回答した施設 (90 施設) のうち、一般名処方発行に対応したオーダリングシステムを導入している施設は 39 施設 (43%)、導入していない施設は 51 施設 (57%) であった (図 9)。

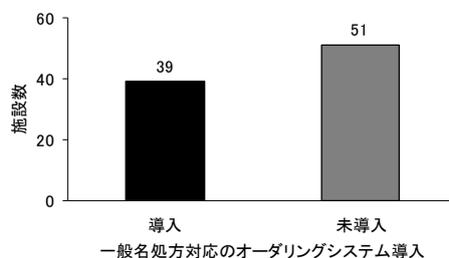


図 9. 一般名処方対応のオーダリングシステム導入状況

2) 一般名処方自動切替えオーダリングシステム

一般名処方発行に対応したオーダリングシステムを導入している施設 (39 施設) のうち、一般名処方せんに自動的に切替えができるオーダリングシステムを導入している施設は 19 施設 (49%)、導入していない施設は 20 施設 (51%) であった (図 10)。

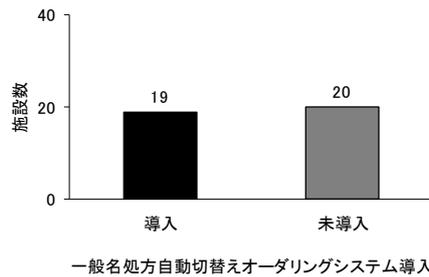


図 10. 一般名処方自動切替えシステム導入状況

3) マスタの更新頻度

一般名処方自動切り替えオーダーリングシステム導入後のマスタを更新する頻度については、採用品目又は一般名処方マスタ等が更新されれば、その都度更新すると回答した施設は 14 施設であり、半年毎、1 年毎に定期的に更新すると回答した施設がそれぞれ 2 施設であった（図 11）。

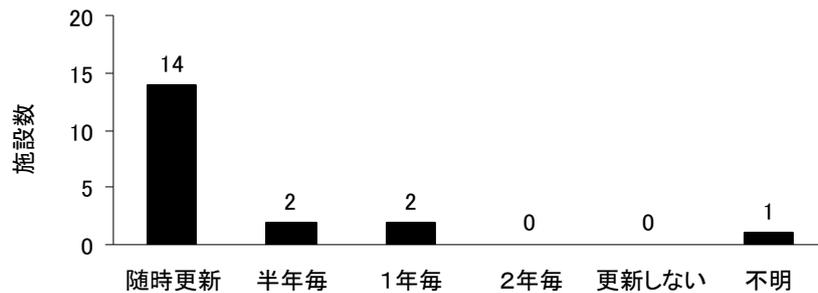


図 11. 一般名処方自動切替えオーダーリングシステム導入後のマスタ更新の頻度

4) 一般名処方自動切替えオーダーリングシステムの今後の導入予定について

一般名処方に対応したオーダーリングシステムを導入していない施設のうち、一般名処方自動切替えオーダーリングシステムを導入する予定があると回答した施設は 6 施設、予定が無いと回答した施設は 32 施設であった（図 12）。

一般名処方自動切替えオーダーリングシステムを導入する予定が無い理由（複数回答可）としては、「システム改修に係る費用が無い」が 37 件、「業者が技術的に対応できない」が 10 施設、「病院採用品目と一般名処方マスタとの紐付けが困難である」が 8 件、「システムを継続的に更新することが難しい」が 5 件であった（図 13）。

今後、一般名処方自動切り替えシステムを導入するのに必要な事項（複数回答可）としては、「業者に支払うシステム改修に係る費用の補助」が 36 件、「病院薬剤部での作業費用（人件費等）の補助」が 24 件、「継続してシステムを更新する費用の補助」が 21 件、「その他（医師との連携に関する事項）」が 7 件であった。

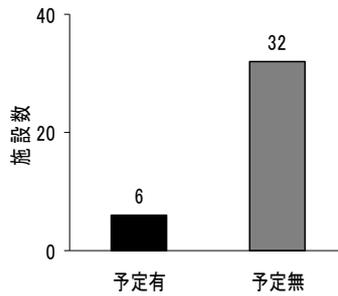


図 12. 一般名処方自動切替えシステムの導入予定

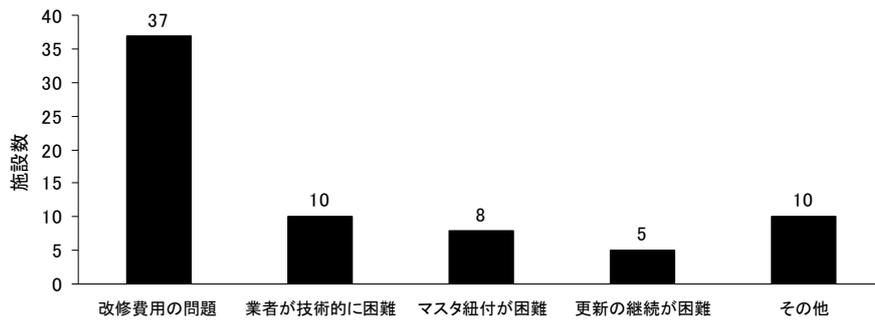


図 13. 一般名処方自動切替えシステムを導入しない理由（複数回答可）

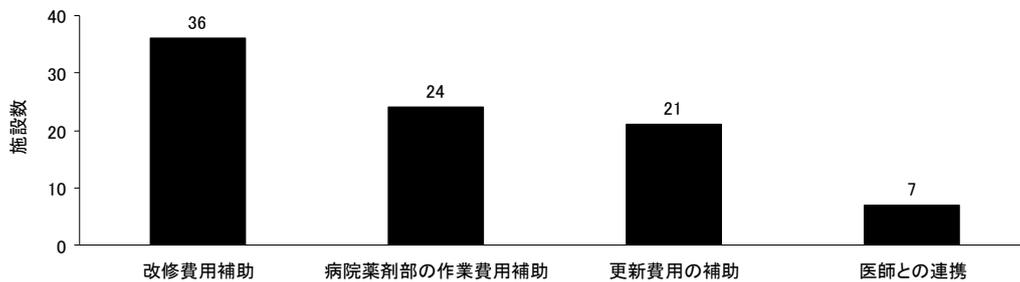


図 14. 一般名処方自動切替えシステムの導入に必要な事項（複数回答可）

(4) 一般名院外処方せんを発行していない理由

一般名院外処方せんを発行していない施設（157 施設）を対象にその理由を確認した。一般名院外処方せんを発行していない理由（複数回答可）としては、「病院が一般名院外処方せんを発行しない方針である」が 57 件、「一般名院外処方せんの発行にオーダーリングシステムが対応していない」が 50 件、「一般名処方に関する患者への説明が必要である」が 18 件、その他として、「医師の判断に任せる」が 7 件、「一般名院外処方であるなどの GE 品目が調剤されるのか不安である」が 6 件、「GE 品目名で院外処方を発行している」が 7 件であった（図 15）。

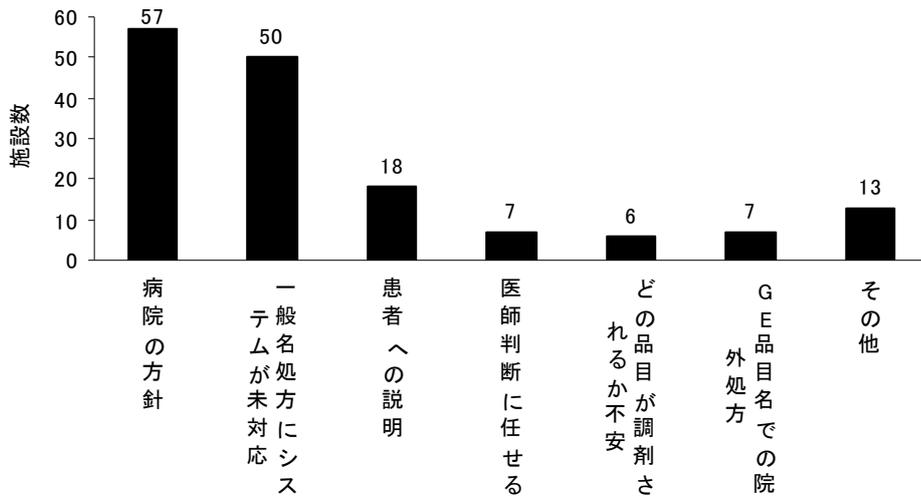


図 15. 一般名院外処方せんを発行していない理由（複数回答可）

(5) 一般名院外処方せんを発行する予定について

一般名院外処方せんを発行していない施設（157 施設）について、今後、一般名院外処方せんを発行する予定がある施設は 17 施設（12 %）、予定が無い施設は 125 施設（87 %）、無回答は 14 施設（10 %）であった（図 16）。

一般名院外処方せんを発行する予定がある施設（17 施設）のうち、一般名処方自動切り替えオーダーリングシステムを導入する予定があると回答した施設は 5 施設であった（図 17）。

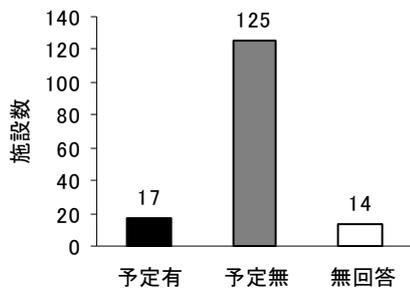


図 16. 一般名院外処方せんの今後の発行予定

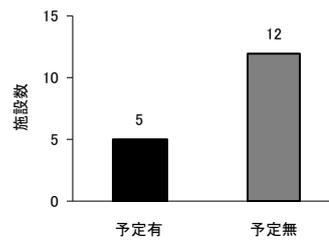


図 17. 一般名処方自動切替えシステム導入予定

(6) 一般名処方に係る課題

患者や医療機関との間で発生した一般名処方やジェネリック医薬品に係る問題事例について、下記の意見が提示された。

<意見>

- ・一般名院外処方せんを発行してから患者様から他の薬に変更になったのではないかと不安や疑問の声が多い。
- ・ジェネリック医薬品の商品名を変更するメーカーが多く、同一商品でも異なる薬が調剤された旨の苦情が病院にも来る。
- ・ジェネリック医薬品の販売名が一般名に切り替わっているため、ジェネリック医薬品の商品名が一般名と同じ場合のみに一般名処方を発行している。
- ・一般名院外処方の場合、実際調剤された品目がカルテに明記されず、責任が曖昧となるため、一般名院外処方を増やすことに対して、医師として抵抗があると思う。
- ・医師が一般名を覚えられないので、当院では一般名処方を発行できない。
- ・一般名処方ではどのジェネリック医薬品の品目が調剤されるのか不安であるため、病院として信頼できる品目名で院外処方を発行している。
- ・院内の薬事委員会でジェネリック医薬品の採用品目を認定しているため、一般名での院外処方せんは発行していない。
- ・医師の一般名を覚える手間、薬剤師が商品名から一般名に打ち直す手間もあるので、一般名処方自動切替えシステムを導入しない限り、一般名処方の発行は困難である。
- ・一般名での院外処方の場合、先発医薬品とジェネリック医薬品の適応症で齟齬が生じるケースがある。

6. 結論

今回のアンケート集計の結果、既に病院の大半（75%）が院外処方せんを発行する中で（図4）、一般名処方を発行していない病院（64%）が多く（図7）、その大半の病院（87%）が「今後も一般名処方を発行する予定が無い」と回答している（図16）。その主な理由として、「病院の方針」、「一般名処方にオーダーリングシステムが対応していないこと」、「患者への説明が苦慮されること」に起因している（図15）。

また、一般名処方の抱える課題として、医師が一般名処方ではどの品目が調剤されるのが不安であること、そのために病院が信用できるジェネリック医薬品の品目名で院外処方せんを発行していることから（図15）、薬局に対して基幹病院の採用品目に関する情報共有を進めていくとともに、薬局から調剤した品目に関する医師への情報提供の有り方も検討する必要がある。